小学校　生活・総合的な学習の時間　部会

部会長名　添田町立添田小学校　校長　益田　茂
実践者名　添田町立添田小学校　教諭　田中　雅人

１　研究主題

主体的・対話的な子どもを育てる総合的な学習の時間
～　体験活動を中心とした、ふるさと学習を通して～

２　主題設定の理由

（１）現代社会の要請から

現代社会は、情報機器や人工知能の急激な発達による情報化の進展が著しい。それに伴い、ICT 機器を中心とする学習ツールも学校教育に導入され、学びの方法を発展させ、より豊かな教育活動を実践していかなければならない。

また、学校教育は、これからの社会に対応していくために将来にわたって学び続ける基盤を形成し、学びの主体者としての学習者を育てる必要がある。創造的な思考や探究的な学びを行い、他者と共同するコミュニケーション能力を育て、学びに向かう力を育成していくことが求められている。つまり、「学び合い、支え合い、高め合う」集団づくりを通して、society 5.0 の社会を生き抜く子どもたちを育てていかなければならない。

学習指導要領では、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の３つの柱で再構成されている。つまり、「見えない学力（非認知能力）」と「見える学力」の両方を育成していくことが強く求められている。

（２）児童の実態から

本学校の５年生は、今までに、町探検を通して危険な場所を調べたり、英彦山川の生き物や環境を調べたり、木工教室を通して木に触れあったり、さまざまな体験活動を経験している。今年度実施した添田町についてのアンケート調査において、９５％の子どもが添田町のことを『好き』と回答していた。理由としては、「自然が多いから」「食べ物がおいしい」などがあった。しかし、「自然体験をしたことがありますか」という問いには、５４％の子どもが『はい』と答え、自然体験活動をしたことがないと感じている子どもが４６％もいることが分かった。このことから、添田町のことは好きではあるが添田町でどんなことができるのか、知らない子どもがいることが分かった。そこで、５年生では、「添田町の魅力アピール大作戦！！」という内容を行うこととした。添田町の環境や添田町でできる自然体験活動を体験することで、子ども達がふるさとの添田町の「魅力」を実感し、さらにたくさんの方へ添田町の魅力を発信できると考えた。

本校では、各学年において「ふるさと学習」を行っている。低学年の生活科の学習では、町探検を行いながら、「〇〇見つけ」を行ったり、芋ほりやカエルの飼育など

を行ったりして、添田町の自然の豊かさや生き物の命の尊さを感じる活動を行った。３年生では、理科「昆虫の育て方」の学習との関連から添田町の昆虫や生き物について英彦山青年の家の方をお呼びして学習を行った。また、椎茸の栽培を菌打ちから収穫まで行い、今は教室で干し椎茸をつくっている。４年生では、川の学習。６年生では、添田町の歴史文化財を調べ、実際に見学に行ったり、指導員の方の話を聞きに行ったりして、添田町の歴史や文化を学んでいる。

このように、全ての学年で「ふるさと添田」について学び体験することができるように位置づけられている。また、外部の指導員による指導も盛んに行われており、子ども達の非認知能力は年を追うごとに養われている。

３　主題の意味

（１）「主体的・対話的な子ども」とは

主体的な子どもとは、自ら課題を設定し、見通しをもって活動し、振り返りを行うことで次の課題を見つけていく子どものことである。また、対話的な子どもとは、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めていく子どものことである。

（２）「ふるさと学習」とは

添田町の目指す子ども像「ふるさと添田町を愛し　夢・希望を実現する　かしこさとたくましさを兼ね備えた　人間性豊かな心を持つ子ども」を育成するために、発達段階に応じた体験活動等を生活科・総合的な学習の時間を中心とし、教科横断的に設定した学習のことである。

４　研究の目標

総合的な学習の時間において、「添田町の魅力アピール大作戦！！」やこの単元の中に位置付けられている、４泊５日の長期宿泊体験学習を通して、主体的・対話的な子どもの育成を図る指導の在り方を究明する。

５　研究仮説

総合的な学習の時間において、以下のような手立てをとれば、研究の目標が達成できると考える。

（１）各段階において指導の在り方を明確化する。
（２）単元を通して班学習や話し合い活動を設定することで、他者と協働した学習を仕組む。
（３）チャレンジデイ（長期宿泊体験学習の中に子どもだけでやり遂げる日）を設定することで、主体的に学習できる時間を仕組む。
（４）振り返りの時間を設定し、次の活動につなげるように仕組む。

6　研究の計画（授業の計画）

（1）単元「添田町の魅力アピール大作戦！！」

（2）単元（題材等）の目標及び指導計画

単　元	添田町の魅力アピール大作戦！！	総時数	３５時間	時期	６～１月
単元の目標	○資料やインターネット、体験活動など目的に応じた情報収集の仕方を考え、得た情報を使って自分達の住む添田町の魅力についてまとめることができる。（知識及び技能） ○添田町の現状から課題を見つけ、自分達にできることを考え、実践したことを発信する内容や方法を考えることができる。（思考力、判断力、表現力等） ○仲間と協働することのよさや達成できた手応えを実感し、困難なことに対して粘り強く取り組もうとする。（学びに向かう力、人間性等）				

次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(働･援)
一	1	○添田町の現状から課題について考え、単元の見通しをもつことができる。	・添田町についてのアンケートから子ども達が感じている添田町の魅力と添田町に来ている観光客の推移から添田町の課題について考える。	・添田町の現状から課題に気付くために、添田町の観光客が減っていることをグラフで見せ、その原因について考えさせる。
	1	○単元のめあてを立てることができる。	・添田町の課題から、自分達が添田町の魅力を発信していくためにできることを考え、話し合う。	・取り組む活動を明確にするために、単元のめあてと単元の３つの柱を立てるように促す。 ①添田町を「知る」 ②添田町を「大切にする」 ③添田町のよさを「広める・伝える」
二	3	○添田町の魅力を知るために、資料やインターネットを使って調べることができる。	・添田町でどのような体験活動ができるかを調べる。	・目的に応じた情報収集ができるように、資料やインターネットなどの資源をたくさん用意する。
	1	○自分で調べるだけでなく、実際に話を聞きに行ったり、体験したりしたいという考えに思い至ることができる。	・体験活動について詳しく知るためにどのような手段があるか話し合う。	・話を聞きに行くようするために、「実際に聞いてみたい」や「見てみたい」という発言を取り上げ、全体に共有する。
	2	○添田町の魅力を感じることができる体験活動を選ぶことができる。	・英彦山青年の家の方から体験活動の説明を聞き、添田町の魅力を伝えることができる体験活動を選ぶ。	・添田町の魅力を伝えるという目的から逸れないために、めあてに立ち返りながら話し合いをさせる。

	2	○長期宿泊体験学習に向けて、実行委員が中心となり、各班や各係の目標を決めることができる。	・活動班と生活班を決め、役割分担を行い、役割ごとに係の目標を決める。	・子ども達でめあてや役割分担を決められるように、各役割の内容を明確にする。
	2	○添田町を大切にしていくために、環境の保全について考えることができる。	・英彦山青年の家の指導員の方から自然とごみの関係や登山での歩き方の話を聞く。	・自然を守ることが添田町を大切にすることにつながると意識させるために、自然とごみの関係を考えさせる。
	2	○様々な体験活動を行うには、多くの支えがあることに気付くことができる。	・長期宿泊体験学習をサポートしてくれる大学生との交流会を行う。	・多くの支えに気付かせるために、大学生がサポートしてくれる目的や理由を伝える。
	2	○自分の役割に責任をもち、積極的に活動することができる。	・長期宿泊体験学習での各活動の役割分担や役割の練習を行う。	・全員が責任をもって体験活動に取り組むために、必ず一人に一役設定する。
三	8	○長期宿泊体験学習のめあてを達成するために、自分の役割に責任をもち、友達と協力して生活することができる。	・４泊５日の長期宿泊体験学習を行う。	・子ども達の主体性を育むために、実行委員や班長を中心に子ども達で話し合いを行わせながら、活動を行っていけるように仕組む。
四	1	○お世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えることができる。	・長期宿泊体験学習でお世話になった方々へお礼の手紙と長期宿泊体験学習の振り返りを書く。	・感謝の気持ちを伝えるために、感謝の文章と心に残った場面を絵に描かせる。
	8	○添田町のよさを広めるために、添田町情報から必要な情報を選び、新聞等にまとめることができる。	・長期宿泊体験学習を通して、知り、体験した添田町の魅力を発信するための新聞等にまとめる。	・添田町の魅力を知ってもらう新聞にするために、何をどんなふうにまとめるとよいかを考えさせる。
	1	○添田町の魅力を知ってもらいたいという思いをもつことができる。	・作成した新聞を添田町に掲示する。	・どこに掲示するとより多くの人に見てもらえるか考えさせる。
五	1	○単元を通した振り返りを行うことができる。	・単元の振り返りを行う。	・単元が終わっても添田町を大切にしていくためにできることを考えさせる。

7　指導の実際

（1）課題設定

教師の働きかけ	児　童　の　反　応
○添田町に関するアンケー	・添田町には、豊かな自然や観光する場所はあるが、観光客がど

トを実施し、その結果から添田町の課題について考えさせる。 〇添田町の抱える課題から、取り組んでいく内容と単元のめあてを作成させる。	んどん減っているという課題に気付き、５年生としてできることを考えた。 ・添田町の抱える課題から自分たちで解決できる方法を考え、３つの単元の柱と単元のめあてを考えた。 単元の柱 ①添田町を「知る」　②添田町を「大切にする」 ③添田町のよさを「広める・伝える」

単元のめあて
添田町の魅力を５年生でたくさん体験して、広めよう。

（２）情報収集（事前準備と４泊５日の長期宿泊体験学習）

教師の働きかけ	児　童　の　反　応
〇長期宿泊体験学習に向けて実行委員を動かす。 （実行委員を中心に活動をさせていく。） 〇英彦山青年の家の指導員と打ち合わせを行い、添田町でできる体験活動の説明を行ってもらう。	・実行委員と学年のめあてを決め、実行委員が主体となって「添田町の魅力アピール大作戦！！」を進めていく。 ・添田町の資料やインターネットを使って調べる活動を行う。 ・指導員の話から、やってみたい活動や添田町の魅力としてアピールできる活動を選ぶために、話し合い活動を行いながら選んだ。 ・班でまとめた意見を交流し、長期宿泊体験学習で行う体験学習の内容を決めた。 **長期宿泊体験学習で体験したいこと** ・星空教室　・英彦山登山 ・天狗からの挑戦状　・ナイトハイク （英彦山に関するクイズを行いながらするウォークラリー） ・ピザづくり（火起こし体験） ・森の迷宮（自然の中で迷路）

○実行委員を集め、学年集会や学級での取り組みの進め方を伝える。	・実行委員が学年のめあてを発表し、めあてに向かって５年生全員で動き出す。
○長期宿泊体験学習の活動班と生活班の説明を行う。	・活動班と生活班の班長を中心に班のメンバーを決めた。 ※学びに行くこと、友達と仲を深めることという目的を何度も確認した。
○活動班と生活班の中の役割について説明し、一人一役に必ずなるように促す。	・役割ごとに集まり、仕事内容の確認や役割のめあてを決めた。
○自然とごみの関係についての環境教育と登山での歩き方の説明の指導を行ってもらうために、英彦山青年の家の指導員と打ち合わせを行う。	・ごみは何百年も分解されないことに気付き、長期宿泊体験学習での過ごし方を考えた。 **【写真３】ごみが分解されるまでの年数を考える子ども達** ・登山での歩き方を知り、疲れないように一定のペースで歩くことの大切さを実感した。
○大学生との交流会を実行委員中心に開催し、仲を深めるためにできることを考えさせた。	・大学生との交流会を通して、大学生と話をしたり、遊んだりして仲を深めた。
１日目	長期宿泊体験学習開始
○奉幣殿と宝物館の見学では、疑問に思ったことをどんどん聞くように促した。	・添田町の歴史や文化についての説明を聞きながら、必死にメモを取ったり、質問したりすることができた。 **【写真５】宝物館で指導員に説明を聞いている様子**

２日目 〇外来生物についての環境教育を外部講師の方に行ってもらう。	・外来生物が日本の生態系を壊してしまうことや、添田町にいる在来種を守っていくことが大切であると気付くことができた。 【写真６】外部講師による外来生物についての講義の様子
〇１回目の野外調理では、２回目の野外調理を見越して、班で協力しながら進めていくことを促す。	・班で決められた役割分担をしっかりと行いながら、１組はカレー、２組はピザを協力して調理することができた。 ・片づけも班で協力して行い、終わっていない班の手伝いも積極的に行うことができた。
３日目 〇登山では、歩き方と休憩の仕方を指導する（お互いに声を掛け合い、支え合いながら登るように促す。）	・班でまとまって歩き、友達と声を掛け合いながら最後まで登りきった。 ・友達と協力して、最後まで粘り強く頑張り、登りきる達成感を味わうことができた。 【写真７】友達と協力した登山
４日目　チャレンジデイ 〇２回目の野外調理では、周りの大人に頼らず、子ども達の力で行えるように、事前打ち合わせの時間や準備時間を設定する。	・２回目の野外調理では、１組はピザ、２組はカレーを作るため、お互いに１回目に行った調理のポイントや失敗してしまったことなどを話し合った。 ・お互いのアドバイスをもとに班や学級の友達に聞きながら、協力して子ども達の力で野外調理を行うことができた。 【写真８】友達と協力して行ったチャレンジタイム（野外調理）

○キャンドルの集いも子ども達で運営できるように事前の準備やリハーサルを何度も行った。	・学級ごとに出し物を考え、練習し、発表会を行うことで学級の仲も深めることができた。 ・全体で、マイムマイムやキャンドルの集いを行うことで、学年の仲も深めることができた。
５日目 ○４泊５日の振り返りの中で、大学生や英彦山青年の家の指導員方に感謝の気持ちを伝える時間を設定した。	・４泊５日お世話になった方々に素直な感謝の気持ちを伝えることができた。 ・思い出を話しながら楽しく振り返りを行うことができた。 ・支えてくれた方々の存在の大きさを感じていた。

（3）整理・分析

教師の働きかけ	児　童　の　反　応
○４泊５日の中で体験した活動の中から、おすすめの体験を選ばせる。	・長期宿泊体験学習の中でどんな活動が魅力的であったか、どの活動について知ってほしいかなどを考えながら体験活動を選ぶことができた。
○４泊５日の中で、自分の成長したことや友達と生活してよかったことを振り返らせる。	・自分の成長したことを書くことで、長期宿泊体験学習が実りのあるものであったと実感できていた。 ・普段見えない友達のよかったことをたくさん書くことで、学級の仲を深めることができた。
○まとめをするときに長期宿泊体験学習のしおりや振り返りをもとに書くように促す。	・しおりの中に毎日の振り返りを書いていたので、長期宿泊体験学習のことを思い出しやすく、まとめの内容もしっかり書くことができていた。
○添田町の人以外が読んでもわかるように書くように促す。	・相手意識をもってまとめ学習に取り組むことで、文章や見出し、色や写真の工夫を行うことができた。

（4）まとめ・発信

教師の働きかけ	児　童　の　反　応
○添田町で人が多く来る場所に掲示できるように役場等に連絡を行う。	・添田町の魅力を広めるために、どうすればよいか話し合うことができた。 **【写真９】まとめた新聞を紹介し合う活動**
○まとめ活動で作成した新聞を掲示してよいかの	・自分達がどんな目的で掲示したいのかをしっかりと伝え、掲示してもらうことができた。

確認の電話を実行委員に行わせる。	

8　研究のまとめ

（1）各段階において指導の在り方を明確化する。

単元全体の見通しをもち、各段階での子ども達の動きや目標を子ども達自身が理解することができた。目的をもって、様々な活動に取り組むことができた。

（2）単元を通して班学習や話し合い活動を設定することで、他者と協働した学習を仕組む。

単元の中で、学級での話し合い、長期宿泊体験学習の活動班や生活班での話し合い、係ごとの話し合いなど様々な場面で話し合い活動を仕組んできた。今回、一人ひとりが自分の役割を理解し、全員で目的をもって活動することができた。また、特に実行委員の子ども達は、事前に実行委員で話し合いを行いながら学年を動かしていた。一人ひとりが自分の役割に対して責任をもち、全員で協力しながら取り組むことができていた。

（3）チャレンジデイ（長期宿泊体験学習の中に子どもだけでやり遂げる日）を設定することで、主体的に学習できる時間を仕組む。

長期宿泊体験学習の４日目にチャレンジデイを設定した。チャレンジデイでは、できる限り大人に頼らずに子ども達が協力し合って活動に取り組んでいく。野外調理やキャンドルの集い、班長会議など全ての活動において、実行委員や班長を中心として、話し合いながら進めていた。また、班同士でアドバイスしたり、細かく確認したりして行うことができた。この活動の中で、自分で考え、友達と協力すればチャレンジできるという思いをもつことができた。

（4）振り返りの時間を設定し、次の活動につなげるように仕組む。

各段階や長期宿泊体験学習の一日ごとに振り返りの時間を設定し、次どうしたらよいか考えさせた。できたことやできなかったことを反省するだけでなく、次の日に成功するにはどのように行動すればよいかを考えるようになった。

9　成果と今後の課題

○　子ども達が感じる、添田町のイメージと現状を比較することで課題をもつことができ、より明確な見通しをたてることができた。

○　英彦山青年の家の指導員の方と何度も打合せしながら、体験活動や講話を行ってもらうことで添田町の魅力について、より詳しく知ることができた。

○　実行委員を中心に単元を進めていくことで、子ども自身が見通しをもったり、話し合いながら考えたりするような主体性を育成することができた。

○　長期宿泊体験学習やそれに向けての準備の段階において、話し合い活動や班活動などをたくさん仕組むことで助け合ったり、支え合ったりしながら協働的に学習に取り組むことができた。

○　今回取り組んだ、「添田町の魅力アピール大作戦！！」を通して感じた、子ども達の感想を一部抜粋した。感想から、子ども達の中に行動面や自身、友達に対する

意識の変化が見られた。

子ども達の感想（抜粋）

1　自分が成長したこと（行動面、自信、助け合い）

- 人前ではずかしかったけど、きちんと人の前で話すことができた。
- 誰かが困っていたら、相手のことを優先できるようになった。

2　友達と生活してよかったこと、感じたこと（安心感、新たな発見）

- 友達の知らないやさしいところや一生懸命なところがわかった。
- 一人じゃだめだと思ってしましそうなとき、みんながいてくれて安心した。
- あまり話したことがない人と生活したら意外と気があって楽しかった。

3　これから先どんな自分になりたいか（進んで行動、自分の力で）

- 人任せにせずに、自分の力で解決できるようになりたい。
- 嫌なことや大変なことがあっても乗り越える自分になりたい。

○　添田小学校では、５年生を対象として「生きる力」についてのアンケート調査を長期宿泊体験学習の事前・事後・追跡（さらにその後）の３回行っている。「生きる力」を見取る項目として、「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」がある。このアンケートの３年間の結果が図１になる。３年間を通して、事前調査の時点での「生きる力」が向上していることがわかる。また、単元の取り組みを通して、「生きる力」が向上していることもわかる。また、長期宿泊体験学習後の日々の子ども達の様子も変わってきたと感じる。教師の指示を待たずに見通しをもって活動したり、自分の意見を積極的に発言したりする子どもが増えた。このことからも、今回の単元での取り組みは有効であったと思う。

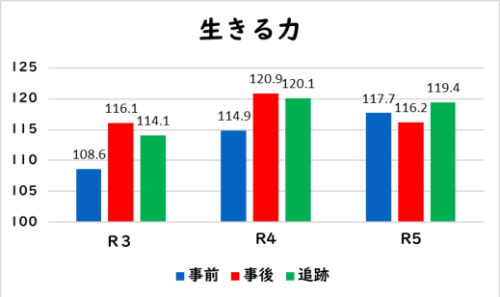

図１　「生きる力」の調査結果

●　実行委員や一人一役など計画的に取り組んでいたが、友達に任せてしまう場面があったので、班の構成の仕方などを検討する必要がある。

●　意図的な活動を仕組んでいくために、より明確な単元計画と単元の見通しをもつ必要がある。

◎　参考文献

・「小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」　文部科学省　平成２９年